

□次期学習指導要領から

各教科、道徳科、外国語活動  
総合的な学習の時間及び特別活動  
の指導を通して資質・能力の育成を目指す。



**資質・能力とは**

- ①知識及び技能
- ②思考力、判断力、表現力
- ③学びに向かう力、人間性

各教科における「見方・考え方」とは・・・？  
「見方・考え方」を把握したうえで単元・授業を構成する

**目指す児童の姿**

**主体的・対話的  
で深い学び**



**教科の見方・考え方**

**学習過程・授業の改善**

□5・6年算数科から

5年「合同な図形」：三角形を作図する条件を選択し作成する。これまで学習した内容を関連づけて作図に必要な構成要素（条件）を決定していく。

作図の構成要素（条件）を最初から与えられるのではなく、自ら見つけ出し決定することに、「数学的な見方・考え方」を育む指導になると考える。

6年「角柱や円柱の体積」：複合図形の体積を求めるとき、角柱や円柱の求積公式が適用できるか



考えることをねらっていた。そのための手立てとして、具体物の操作活動を位置づけた。また、二人の児童の学習状況を把握したヒントカードの出し方も工夫。「とも学び」を実効性のあるものにするためには、一人一人の児童が「まずはトライ！分からなければみんなに聞く」という姿勢（学びに向かう力）で臨まなくてはならない。従って授業の導入場面での教師の発問、言葉がけ、児童とのやり取り・課題設定は単元・授業に主体的に取り組むために大変重要である。また、全ての児童が（できるかもしれない!）と思わすことが「主体的・対話的で深い学び」の実現に最も大切なことと考えると、ヒントの出し方こそ児童の気持ちを理解した工夫が必要になる。